

自分も尊重し、 相手も尊重できるように



～大人から子どもへ、男女共同参画のバトンを繋げていくために～



「都留市男女共同参画推進委員会」では、地域に男女共同参画の取り組みを広げていくための活動を行っています。第13期推進委員会では、小中学生・高校生・大学生に向けて、男女共同参画について考えてもらう取り組みを進めています。

今回の機関紙「はばたき」では、県の男女共同参画・共生社会推進専門人材「専門アドバイザー」としても活動されてる、都留文科大学の加藤敦子学長にお話を伺いました。

問合先 地域環境課 地域振興担当

今回のアドバイザー



加藤 ^{あつこ} 敦子 学長

2013年に都留文科大学に着任し、国文学科長、語学教育センター長、附属図書館長、副学長を歴任し2023年4月から現職。

専門分野は、歌舞伎・浄瑠璃を中心とした日本近世文学で、県が設置する男女共同参画・共生社会推進専門人材の女性リーダー分野の専門アドバイザーとしても活動されています。

参加した委員

佐藤委員長
斉藤委員 長瀬委員
藤江委員 中野委員



「都留市男女共同参画推進委員会」ってなに？

都留市男女共同参画推進委員会は、公募や地域で活動する団体の方など、さまざまな属性の委員から構成され、現在は12名で活動しています。

平成12年度から都留市男女共同参画推進委員会として活動を始め、どのように地域に男女共同参画の取り組みを広げていくか協議を重ねながら啓発活動などの事業を行っています。



学長とアドバイザーとしての取り組み

中野 加藤学長は、都留文科大学の学長としてだけでなく、山梨県男女共同参画・共生社会推進専門人材「専門アドバイザー」として

としてもご活躍されていますが、どのような活動をされているのですか。

加藤 最近では、昨年10月に「女性のキャリアと教育」という題で講演会を行いました。今までの教員や研究者の立場に加え、現在務めている学長としての立場も踏まえ、キャリアや教育に関するアドバイザーとしてお話をしました。

中野 加藤学長は、都留文科大学初の女性学長と伺っています。学長として、工夫していること、力を入れて取り組んでいることがありましたら教えてください。

加藤 「初の女性学長として」と言われますが、「女性ならではの」という意識はないですね。大学を運営する立場になり、何ができるかを考えると、一緒に働いている人たちのさまざまな意見を集約して、できる限りそれを反映させて運営していくこ

とに力を入れていきます。

また、時短勤務などのさまざまな勤務形態で働いている教員が大学運営に関われるように、会議の長時間化の防止や、開始時間の繰り上げなどの工夫をしています。

毎日、大変なことばかりですが、学長に就任してから大学全体の動きが見えるようになったことで、さまざまな機関と関わりながら仕事をしていることを再認識し、やりがいを感じています。

長瀬 男性教員が働きやすい職場を作るための取り組みはありますか。

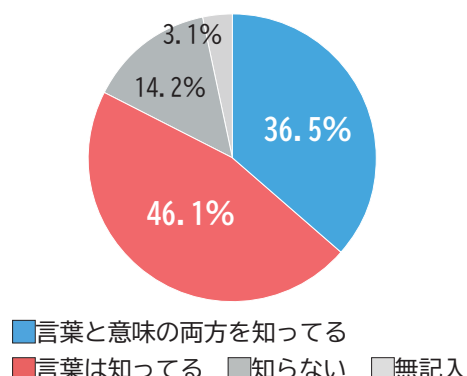
加藤 これまで大学運営の多くの業務を担っていた職員や教員に対して「無理していませんか」と声をかけるなど、特定の方に負担がかからないように対応しています。また男性教員が育児休業を取りやすい環境づくりに取り組んでいます。



本市の男女共同参画推進について

中野 本市では、男女共同参画の認知度が低いのですが、どのように取り組んだらより認知されるようになるのでしょうか。

「男女共同参画」を知っていますか？
(本市にお住いの20歳以上の方 386名回答)



「令和3年度男女共同参画に関する市民意識調査」より

加藤 男女共同参画の考えを広めるためには、一人ひとりが持っている先入観を取り除いていくことや、昔ながらの価値観をほぐしていくことが重要になってくると思います。

例えば、男性と女性が描かれているポスターがあった時に、男女をひっくり返したポスターが作れるのかを考えてみるなど、先入観を取り除き、現代社会で常識とされることに對して自分がどうい

風に受け止めているかを考えてみるのが大切になってくるのではないかと考えます。一つの物事に対して、自分自身の考え方をまとめるといような素朴な試みからやっていくことも大事だと思っています。

そのためには、皆さま方の委員会では、男女共同参画の考えに関する講演会を開催して、市民の方々の知識を増やしていくことも必要だと思っています。

男女共同参画の観点から見た学生生活について

齊藤 「今の大学生は、私たちが大学生だった頃と違うな」と感じることはありますか。

加藤 かなり多くの学生が海外に出て、日本以外の国の文化、社会、人などに接する機会を持つことができる環境が整備されているところが違うと感じます。

齊藤 逆に「昔と変わっていないな」と思うことはありますか。

加藤 部活やサークル活動、アルバイトなど、大学生活を取り巻くさまざまな活動に一生懸命なところは、私たちが学生だったころと変わっていないと感じています。

子育て世代を含めた 若年層に向けて

藤江 今後は、さらに男女共同参画が当たり前の社会になっていくと思います。が、その社会の中で生活していく上で、大切にしたいことがありましたらアドバイスをお願いします。

加藤 若い人たちには、自分を尊重して相手も尊重できる人になってほしいと思います。そして、子どもと関わる人には、子どもを尊重して接してほしいと思います。「まだ子どもだから」「男の子だから」「女の子だから」などの考え方が先に来ってしまうと、「相手を尊重する」という気持ちや飛んでしまい、思い込みや価値観などを押し付けていくことになってしまいます。

日頃、大学生と接していますが、今のこの時代でも、親から「女の子なんだから大学に行かなくてもいい」「なぜ家から離れるのか」と言われたとの話を聞きます。もちろん、自分の学びたいことを学ぶために進学



するのですが、それを「必要ない」と言われたと受け止めたそうです。

私は、相手を尊重することができるようになるためにも、多様な価値観を学ぶ教育はとても重要であると考えていますが、こうした教育のきっかけとなる場面でも、思い込みや価値観などの押し付けが表に出る局面があるのです。

子どもたちに自分や相手を尊重できる人になってもうためにも、周りにいる私たち大人は、子どもを尊重して接することができるようになりたいですね。

佐藤 本日は、大変貴重なお話をありがとうございました。

山梨県男女共同参画・共生社会推進専門人材
「専門アドバイザー」設置事業

男女共同参画のお悩みに 専門家がお答えします！



「自治会役員に女性を増やしたいが、どうしていいのかわからない。」「DVを若い人たちにもっと知ってもらいたいのにどうしていいかわからない。」…こんな「男女共同参画のお悩み」はありませんか？

県では、男女共同参画の取り組みを支援しています。

お悩みを持っている団体の方など

県男女共同参画推進センター「ぴゅあ総合」へ問い合わせ＆申し込み

県男女共同参画推進センター「ぴゅあ総合」

お悩みに合わせて専門人材をコーディネート＆派遣

専門家が団体や地域にうかがって相談に乗り、課題解決のために一緒に考えます。

問合せ・申込先

山梨県男女共同参画推進センター「ぴゅあ総合」
☎ 055(226)0826

対談を終えて

今回の加藤学長との対談にて、親から「大学に行く必要があるのか」「遠くの大学に行く必要があるのか」と言われた学生がいることを知りました。そして、大人や子どもを問わず、相手を尊重して接することが大切であり、この気づきを多くの方々に伝えたいという想いが強くなりました。

当委員会では、そのために何が必要か、委員会ではどのようなことができるかについて、引き続き専門アドバイザーのお話も伺いながら、活動していきます。

また、対談の中で、都留文科大学では地域の方々とさまざまな活動を展開しており、都留市全体が学生にとってのキャンパスであり学びの場になっていると話されていました。このように、地域で活発に活動している学生とも関わり、学生の価値観や考え方にも触れながら、活動を広げていきます。

